

# QUAKE NEWS

HAMIC (情報局) = 最も大事な情報です。

- 高度な地震観測システムが必要なのです。
- 本物の地震情報(観測情報)が求められています。
- 確かな組織から正確な情報が生まれます。

何故？電磁波の計測で、地震の発生が「予測できる」のでしょうか。

震源地では、必ず地殻内で軋轢が（押し合いへしあい）生じ、電磁気を起こすので、その電磁波を捉えるのです。

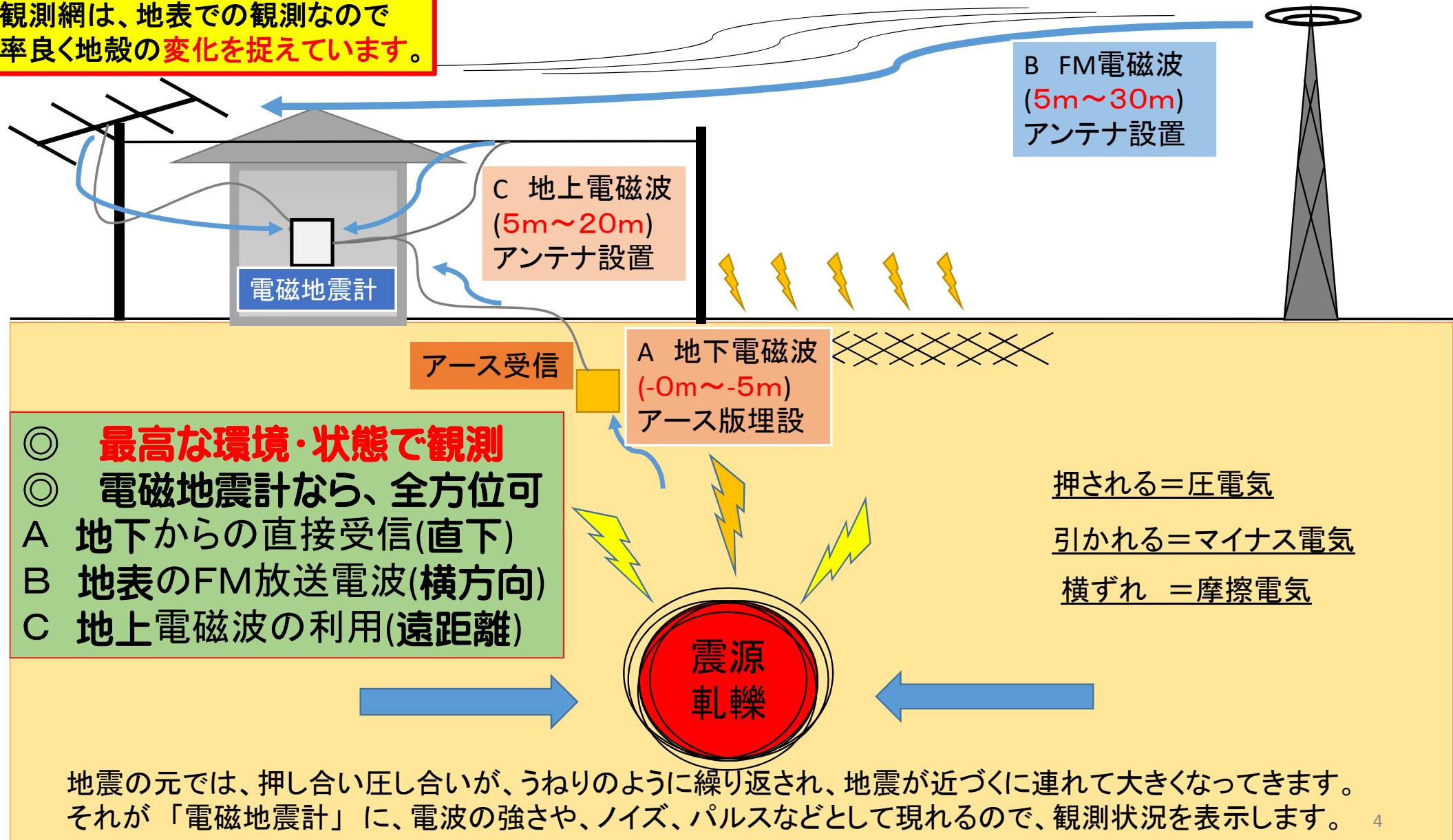
# そのため「下中上の観測方式」

1. 下=アースからの観測 = (直下型地震の探索)
2. 中=FM直接波の観測 = (地上で横方向の探索)
3. 上=電磁波の全般観測 = (上空で日本全域の探索)

観測網と拠点観測で(最新の技術！)

地震の3要素が見えます！

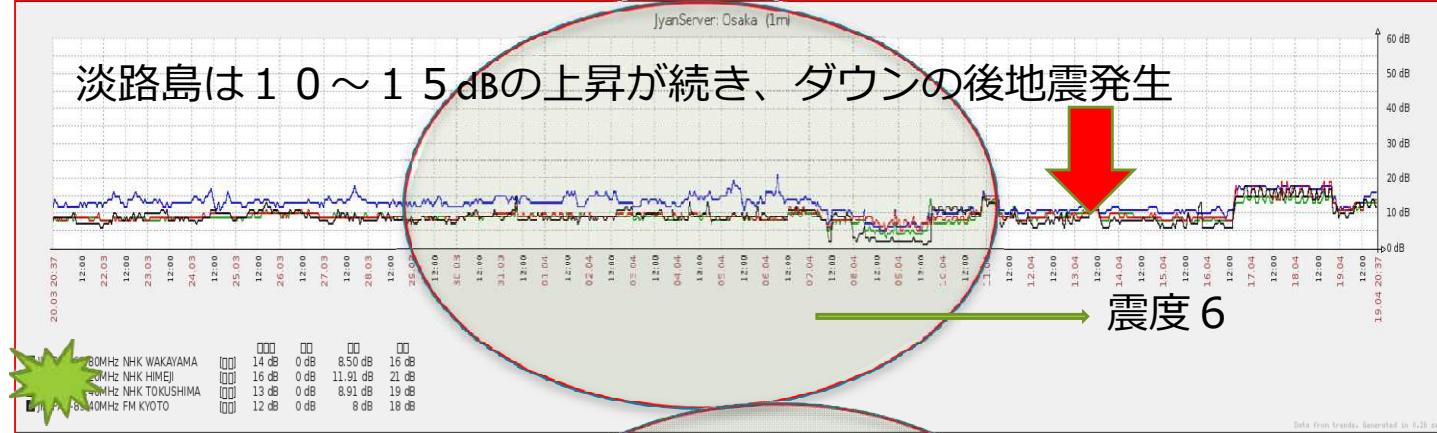
当観測網は、地表での観測なので  
効率良く地殻の変化を捉えています。



## 地震の観測例

# 淡路島と長野地震

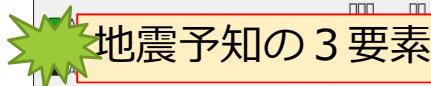
淡路島は10～15dBの上昇が続き、ダウンの後地震発生



淡路島は  
レベルアップ  
(逆断層型)  
(2013年4月)

長野地震は  
レベルダウン  
(正断層型)  
(2014年11月)

長野地震は、4方向の電波が20dB程のダウンを繰り返した後地震発生



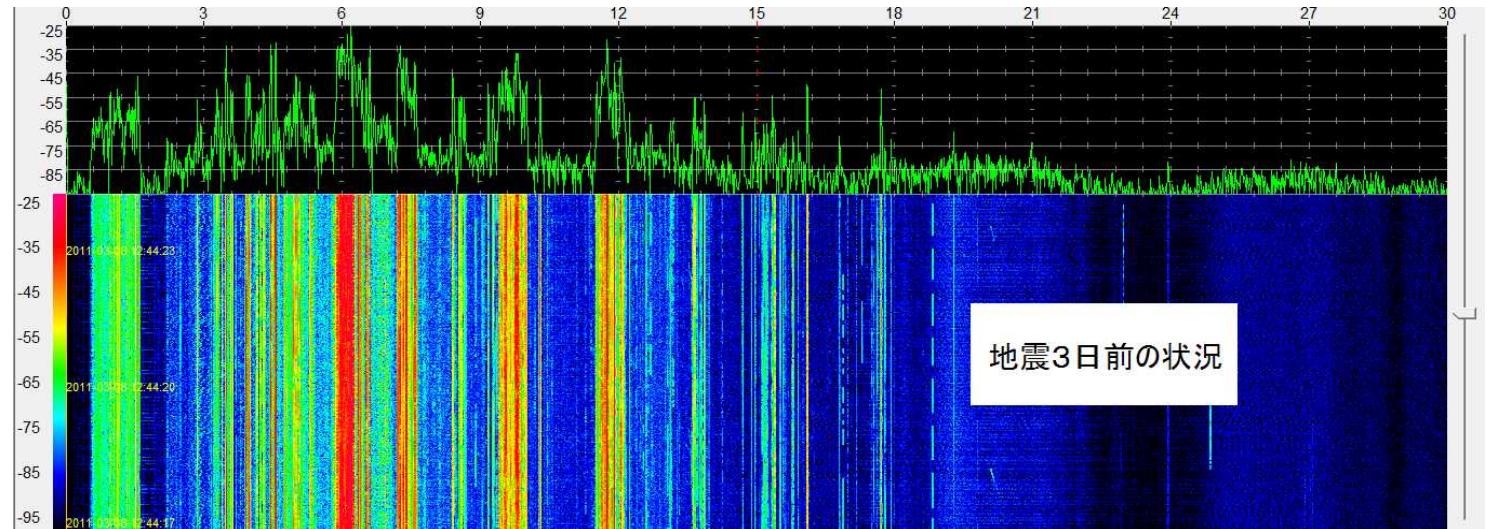
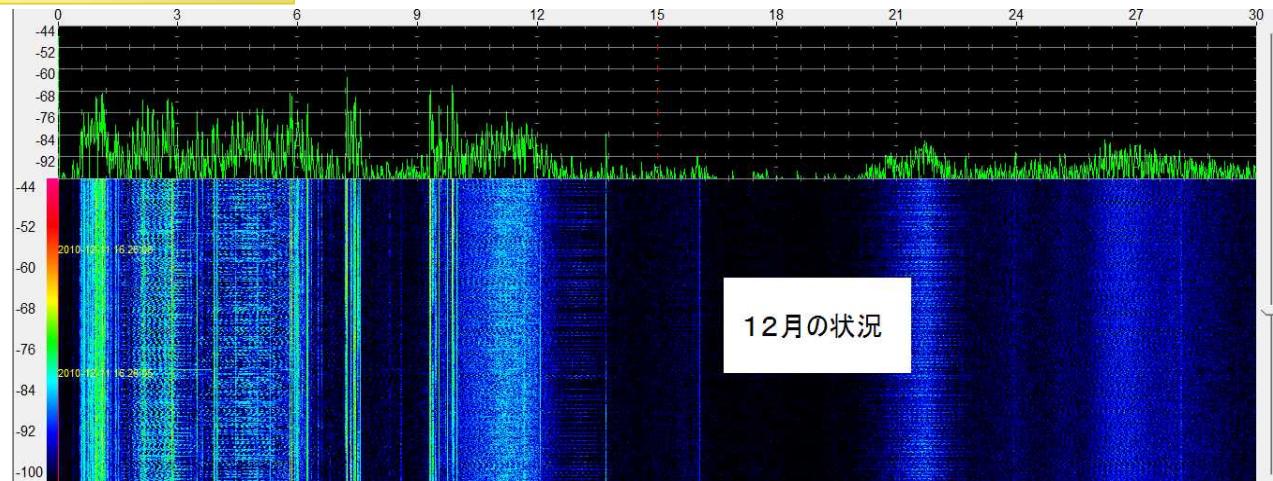
地震予知の3要素 摆れの大きさで震度、 摆れのパターンでいつ、 摆れの方向Checkで場所



Data from trends, generated in 0.26 sec.

# 東日本大震災 (短波帯)

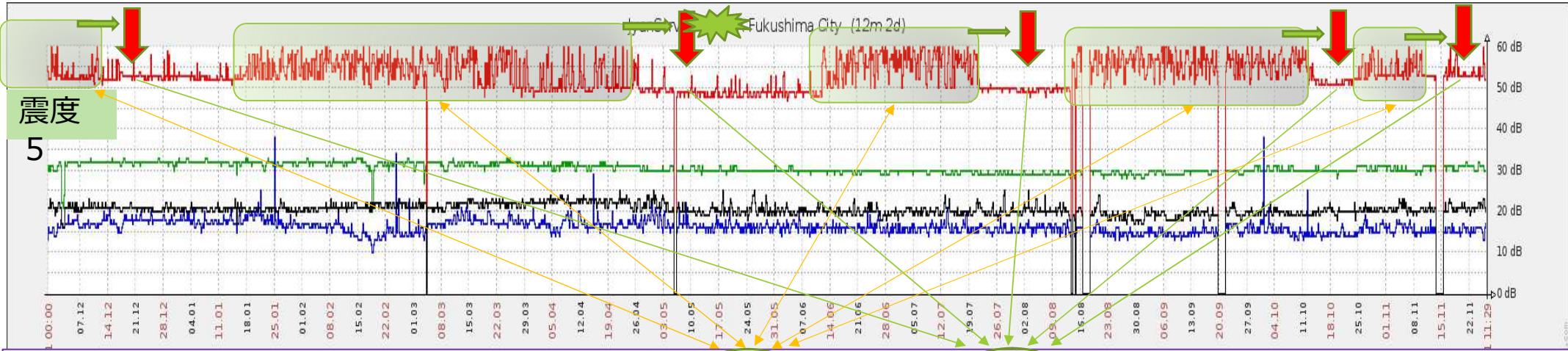
通常のとき



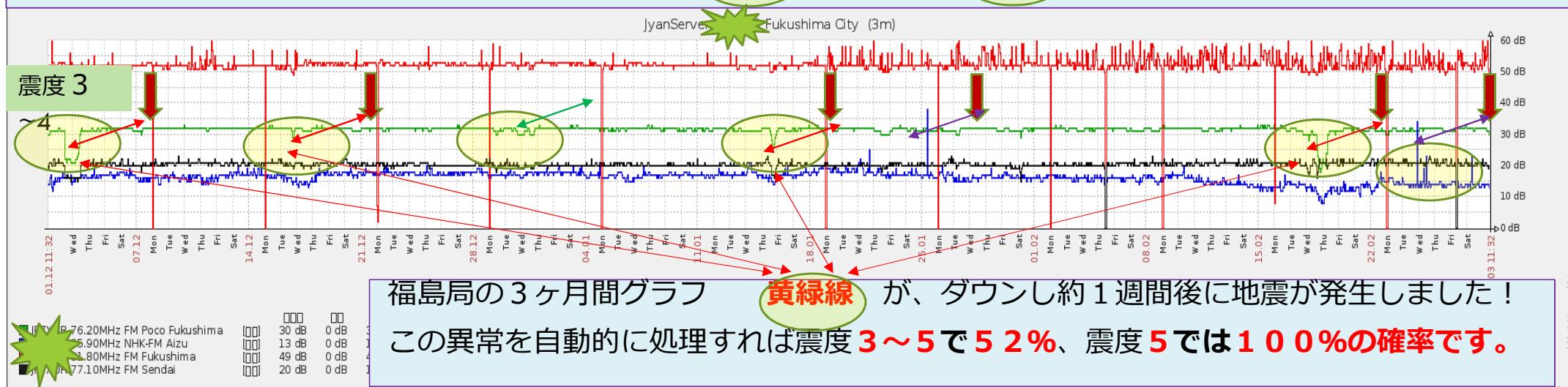
電波の強さ  
を現す色の  
様子が全然  
違うのです。



## 地震観測網の記録例 福島局の観測グラフ(平成27年の1年間分と下は3ヶ月分です)



上図は福島局 1年間グラフ 赤折線異常終了後に震度5の地震が発生しました。



# 地震前兆の記録ビデオ(実例)

## 地震電磁気の観測（最先端技術）

20年の研究、10年の電磁気観測検証から、地震の電磁気前兆現象が見えてきました。電磁気観測の実証実験（アース観測、FM直接波観測、HF観測等）を行っています。特に、新発見が多く、特許申請の準備も行っております。また、FMの直接波観測網は全国に広がってきました。

**震度7** (震度 6 強以上見込)

100%の予測率

# 地震予報は電磁気観測が有利

気象庁は揺れそのものを観測しています。  
しかし、これは地震が起きた後の観測です  
から予報にはならず、間に合いません。

地震の前兆を捉えるには  
電磁気の観測方式が理に叶っています。

## **地震予知＝電磁波観測(＝ノイズ探し)**

地震観測は、実は電波技術者の得意分野なのです！

■電磁気の発生は～震源の軋轢が発生

■電磁気の変化は～震源の様子が変化

- 自然の電磁現象から逆に辿ると、地震の元となる震源地の様子が判ります。
- 電磁気データと自然データを比較解析したら実際の現象に行き着きました。
- 地震と、海洋潮汐や地球潮汐等の相関関係を発見し、学会で発表しました。

結局、地震の自然現象は電磁気理論と地震のメカニズム理論とも基本的に整合していました。

# 地震電磁気観測網が完成すれば！

① どこで、地震が発生するか？

「**地方単位**」 東北や関東等で判る。

② いつ、地震が発生するか？

1週前、2～3日前に**注意・警報等**

③ どれくらい？ 震度は+ - 0.5

## 現在の会社等での地震情報確率は？

地震解析ラボ(電離層) 8局体制 = 13%～(自称?)

週間メガ情報(GPS利用)1200局体制 = 11%～(自称?)

八ヶ岳天文台(電離層) 3局体制 = 9%～(自称?)

**QuakeNews200局体制=50%～90%(以上を予想)**

上記の確率出典は「地震前兆現象を科学する」(2015-12月出版)から引用

QuakeNewsは、現体制40局体制の実績(約52%)で200局体制では90%以上が目標です。